

メンテナンス / MAINTENANCE

ウールは繊維の性質から表面汚れなども遊び毛と一緒に排除する自浄能力があります。さらには水性を持つため、水をはじき、汚れがつきにくく、汚れても落ちやすい特長を持っています。家具の重みなどで押しつぶされた部分も、時間を置くと回復するなど、弾力性・回復力に優れています。一方でウールはアルカリ性の洗剤を使用すると黄変したり、熱湯をかけると風合いを損ねてしまいます。またウールはシミになりにくい繊維ですが、放置すると他の繊維と同様にシミ取り作業で汚れを落とすことになり、繊維を傷めてしまう恐れがあります。したがって通常のメンテナンスに加え、いくつかの点に注意することでカーペットをより長持ちさせることができます。

日常メンテナンス

■掃除機によるメンテナンス

- ・ブラッシングとバキューミングをしっかりと行います。特に新しいカーペットは遊び毛が多く出るため、使用後3ヵ月程度は毎日のお手入れをおすすめします。
- ※ バキューミングの際は、回転ブラシ付きのアップライト型掃除機をおすすめします。

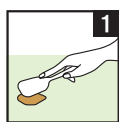
■スチームによるメンテナンス

- ・ウールカーペットの復元のため、ベタツキを取る為にスチームクリーナーにタオルを巻いて掃除をすると効果が上がります。
- ・スチームクリーナーの代わりに熱いおしぼり等での拭き掃除も効果があります。
- ※ スチームを同じ場所で長くかけると、パイルが黄変する場合がありますのでご注意ください。

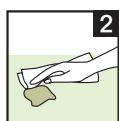
■部分汚れのメンテナンス

- ・部分汚れは手早い処置が大切です。洗剤は中性洗剤を使用します。※一般的な中性の食器洗い洗剤の場合、50倍程度で希釈することをおすすめします。
- ・乾いた雑巾で押さえながら水分を吸い取ります。表面を強く擦るとウール同士が絡み合い、フェルト状になることがありますのでご注意ください。
- ・特殊な汚れは、汚れの性質に適した措置が必要ですが、基本的にはウールのセーターや衣類のシミ取りに準拠してください。
- ・汚れを完全に取除こうとしてカーペットを激しくこすったり引っ掻いたりしないでください。致命的な損傷を与えることがあります。

部分汚れのメンテナンス例



1 洗剤を使う前に、こそぎ落とせる汚れは取り除きます。ネバネバしたものや固体のものはスプーンやフォークで取り除き、汚れが広がるの防ぎます。



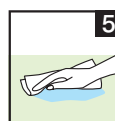
2 汚れにぬるま湯をかけ、きれいなタオルやスポンジで軽く叩き、汚れに水分を移します。(セーターなどのシミを叩くように)



3 ②で落ちない頑固な汚れは、洗剤をタオルやスポンジに染み込ませて、汚れをつまむように移し取ります。



4 ぬるま湯を含ませた布で、洗剤分を取り除きます。



5 タオルなどの吸水性の良い布で水分を拭き取ります。最後に乾燥させます。

■ウール製品に関してのご注意

- ※素材の特性上、生産ロットにより若干の色差が生じることがあります。また経年劣化にて色差が生じることがあります。
- ※シミ取りを含め、全体的なクリーニング・メンテナンスについては、専門業者へご相談ください。
- ※塩素系漂白剤、酸素系漂白剤は使用しないでください。
- ※直接熱湯をかけることは絶対に避けてください。
- ※防虫剤、殺虫剤、消毒剤を直接カーペットに散布すると、パイルが変退色することがあります。使用の際は記載の用法・用量に従い、あらかじめ目立たない箇所を確認してからご使用ください。
- ※長時間直射日光のあたる場所では、パイルが変退色する可能性があります。カーテン、ブラインドなどで日よけしてください。(髪の毛と同じように紫外線には弱い)
- ※コンクリート壁面を流れ落ちる結露は、パイルを変色させたり、カビを発生させる原因となります。こまめに換気するなど、結露を防ぐ工夫をしてください。
- ※パイルがほつれた時、または何かに引っかかるなどしてパイルが飛び出した場合、カットパイル商品なら引き抜かないでハサミで切り揃えて下さい。
ループパイル商品のパイルが飛び出した場合、必ず近くのパイルが引っかかっているので干枚通しなどで引き上げて均一にしてください。

■ウールカーペットに起こる現象について

バー : ウール原糸に絡みついた植物性不純物(細かな木屑のようなモノ)をバーといいます。

バーは、羊の毛を刈取る際、一部入り込むことがありますが、これはウールの特性でありカーペットの欠陥によるものではありません。

遊び毛 : 遊び毛はウールなどの短繊維をパイル糸にした繊維の一部が抜け出るために、綿ホコリのようなものが出てくる現象です。短い繊維を撚り合わせているため絡みの弱い一部の繊維が「遊び毛」として初期段階で出てきます。抜け毛とは異なり、商品の欠陥ではありません。こまめな掃除機がけが最も効果的です。しばらくすると(約2~3ヶ月)この遊び毛は使用初期に比べて徐々に少なくなり、カーペット本来の毛艶が現れます。またパイル糸は、ループ状よりもカット状のものは遊び毛が出やすい傾向にあります。この遊び毛は、美観を維持するためにはなくてはならない存在です。

くも現象 : カットパイルのカーペットを敷いた後、しばらくすると、あちこちに色の差や水溜まりのように見えることがあります。これらは「くも」と呼ばれ、カットパイル、特に無地のカーペットに現れる現象で、ある部分のパイルだけが、他の部分と異なった方向に寝ている状態を示します。残念ながら原因は不明で、現在のところ、カットパイルに「くも」はつきもの、というのが常識となっています。

さらし現象 : カーペットを開梱後、酸素や紫外線に触れることで若干の色変化を起こす現象で、ウールカーペットでみられることがあります。